

「南牧村の学校のあり方を考える」に際しての主な背景

1 児童・生徒数の減少に伴う観点から…右ページ参照

- ① 各校の子どもたちの数の減少が避けられない中で、今の3校が子どもたちにとって、他者と接しながら自立・自律していけるような学びの場たりえていけるか。
- ② 教員配置数の減が避けられない中で、教科学習や各種行事、部活動等の必要かつ十分な指導体制が維持できるか。
- ③ 児童・生徒数や教員数が減少しても公立学校として行うべきカリキュラム等の総量が減るわけではない。そうした中で子どもたちが生まれてから成長していくまでを見通し且つ地域に根差した教育活動を行っていけるか。

2 校舎・付帯施設等ハード面に関する観点から

- ① 3校とも築30年以上経過しており経年劣化が著しい。計画的な施設整備のためにどのような方向性をめざすか。ただし、耐震基準はいずれもクリアしている。
- ② 3校ともに施設構造上の観点から学校施設として適当ではない箇所が少ない。それらの点にどのように対応していくか。
- ③ 3校ともに余裕教室が皆無であり、多様な教育活動が展開できない現状にある。
- ④ 給食共同調理場においてアレルギー対応食のためのスペースが全く確保できない現状。他方で食物アレルギーを持つ子供たちは年々増加傾向にある。
- ⑤ スクールバスの更新について運行形態も含めた観点から検討すべき時期だが、学校のあり方とリンクさせて考える必要がある。

3 教育制度改正の動向から

- ① 小中一貫教育学校・小中一貫型小中学校(いずれも仮称)の制度化をはじめとした学年・学校段階の多様化や独自教科の導入など…平成28年度から
- ② 小学校英語の教科化…早ければ平成32年度から
- ③ 小中学校教員の相互乗り入れ…本年度から漸次実施
- ④ 上記はいずれも、極めてドラスティックな制度改正であり、単に後追いするのでは子どもたちの教育を第一義に考えた対応は困難。このような動きがあるという事を踏まえながら、様々な方向性を検討していく必要がある。

4 最後に…教育委員会として

「学校のあり方」を考えることは南牧村の子どもたちの将来を考えることに等しく、引いては「南牧村の将来」という観点と切り離せないものとの認識に立って議論・検討を重ねてきております。

世代や居住地区を超えて、あまねく村民の皆さんに主体的にお考えいただき、「子どもたちの育ちと学び」を中心に据えたご議論いただきたいと考えております。

平成27年度児童・生徒数 および 将来推計

	児童生徒数
北 小	75
南 小	115
小計	190
中学校	84
合計	274

内 訳		平成27年4月1日現在						
学校名		1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
南牧北小学校	男	6	6	8	9	4	9	42
	女	8	4	3	3	7	8	33
	計	14	10	11	12	11	17	75
南牧南小学校	男	7	8	7	8	12	14	56
	女	12	7	10	8	11	11	59
	計	19	15	17	16	23	25	115
小学校計	男	13	14	15	17	16	23	98
	女	20	11	13	11	18	19	92
	計	33	25	28	28	34	42	190
南牧中学校	男	7	14	15				36
	女	4	23	21				48
	計	11	37	36				84
合計	男	20	28	30	17	16	23	134
	女	24	34	34	11	18	19	140
	計	44	62	64	28	34	42	274

児童生徒数 将来推計 ※小学校はH33・中学はH39までは平成26年度までの出生児数による。

学校名		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度
南牧北小学校	入学児	12	7	13	10	9	4	
	全校	70	66	67	66	65	55	
南牧南小学校	入学児	11	18	14	8	4	13	
	全校	101	96	94	85	74	68	
小学校計	入学児	23	25	27	18	13	17	
	全校	171	162	161	151	139	123	
南牧中学校	入学生	42	34	28	28	25	33	24
	全校	90	87	104	90	81	86	82
児童生徒数計		261	249	265	241	220	209	82

学校名	35年度	36年度	37年度	38年度	39年度
南牧中学校	23	25	27	18	13
	80	72	75	70	58